

防災研修会を実施しました



令和元年11月25日(月)に三茶しゃれなあどホール集会室(オリオン)にて防災区民組織及び防災リーダーの方々を対象に防災研修会を開催しました。

講師として、公益財団法人市民防災研究所理事の池上三喜子氏をお招きし、「女性・多様性の視点から考える防災対策」というテーマで、女性視点の防災ブック『東京暮らし防災』の活用方法や池上講師と関わりのある町会・自治会等の防災への取り組み事例などをお話いただきました。質疑応答の際には、参加者から様々な質問等が挙がり、有意義な研修会となりました。



◆参加者アンケート◆

- ・避難所運営に女性の視点が大切だということが分かった。(女性専用の洗濯物干し場等)
- ・大変切り口が新鮮であった。女性に対する細やかさを考えたい。

ついに完成！世田谷版 HUG が実施されました

～ハグってなに？～

HUGとは、避難所運営を皆で考えるための一つのアプローチとして静岡県が開発したものです。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを疑似体験するゲームです。

☆ Hinanjo Unei Game の頭文字を取って HUG



113 世帯番号 55 西浦5丁目 【女28歳】 妻 生後2ヶ月の子どもと避難してきた。安心して授乳できる場所がほしい。	102 イベント 23 イベントカード 拠点隊ですが、女性用品が届きました。配布場所、配付方法を決めてください。
--	--

世田谷版 HUG カード

令和元年12月7日(土)に桜小学校にて行われた上町地区防災塾で、世田谷版 HUG が実施されました。世田谷版 HUG は、女性の視点、多様性の視点を取り入れた世田谷区オリジナルの HUG で、「せたがや女性防災コーディネーター」養成研修の一貫として今年度、作成しました。

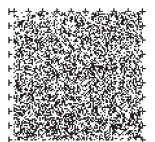
当日は、せたがや女性防災コーディネーターを講師に、45名の参加者が9班に分かれて行われました。

次々と出てくる様々な課題に対して即座に対応を考えなければならないこのゲームに、参加者からは「多岐にわたる課題にすぐに対応するのは難しい。事前に想定し、対応を考えておく必要を強く感じた」「実際に避難所を運営するうえで、様々な視点が必要になることがよく分かった」などの声があがっていました。

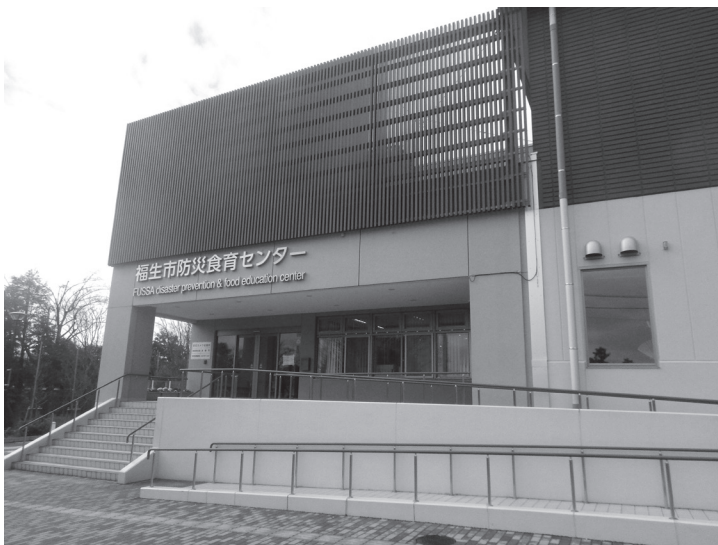
《発行者》 世田谷地域区民防災会議
 《発行日》 令和2年3月 第27号
 《事務局》 世田谷総合支所地域振興課
 地域振興・防災
 電話 03 - 5432 - 2831

【バックナンバー】
<https://www.city.setagaya.lg.jp/>
 世田谷区 HP にて「防災せたがや 世田谷地域版」で検索
 世田谷総合支所1階14番窓口でもご覧いただけます。

回
覧



福生市防災食育センターを見学しました



◀給食調理風景の見学の様子

災害時、屋外で炊き出しができるコンロカート ▶



令和2年2月13日（木）に東京都福生市にある福生市防災食育センターを視察しました。
 福生市防災食育センターは、平常時には、市内小中学校に学校給食を提供する一方、災害時には帰宅困難者などの一時滞在者や避難生活者を受け入れる避難所として機能するほか、災害発生後4日目以降最低3日間、想定避難生活者約15,000人に1日1回、おにぎり2個と汁物を応急給食として提供することができます。当日は、福生市職員の方からの調理場や展示パネルの説明を通じて、安心・安全な学校給食の提供への取り組みを学んだ後、プライベートテントやテント付きマンホールトイレなどを備蓄している備蓄倉庫や応急給食対応調理機（災害時屋外で調理できるコンロカートなど）を見学しました。

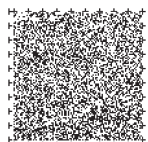
救命講習会開催



令和元年9月13日（金）に上級救命再講習会、10月10日（木）に上級救命講習会を世田谷消防署にて開催しました。

防災区民組織及び区立小中学校のPTAの方々を対象に実施し、心肺蘇生やAEDの使い方、止血法などの応急手当を学んでいただきました。

いざという時のために、最善の救急措置や応急手当を行えるよう、救命講習会を受講して正しい知識と技術を学びましょう。



防災訓練活動状況

区では、防災意識や防災行動力の向上を目的として、町会・学校・幼稚園・保育園・事業所などが行う防災訓練を支援しています。

今年度も世田谷地域では、初期消火訓練や煙中避難訓練、地震体験訓練などの防災訓練をはじめ、災害時に避難所の開設や運営を円滑に行えるようにするための避難所運営訓練などを実施いたしました。

もしもの災害に対して効果を発揮するのは日常の備えです。大切な命を守るためにも、正しい知識を身に付け、災害時に適切な行動がとれるように、日ごろの訓練にご参加ください。

○今年度の訓練実績（令和2年2月末時点）

	実施回数(回)	参加人数(人)
防災訓練	231	33,628
避難所運営訓練	21	3,260
医療救護所訓練(※)	4	650

※避難所運営訓練と同時開催

災害対策の備蓄について

○避難所の備蓄について

区が指定している指定避難所（区立小中学校等）には、下表のとおり毛布や発電機などの生活必需品（資機材等）と食料が備蓄されています。食料は、1避難所あたり約1,600人想定で、1日分を備蓄しています。（都と区を合わせて、おおむね3日分の食料を確保しています。4日目以降は、調達物資での対応を想定しています。）

生活必需品（資機材等）					
毛布	おむつ（大人用、子供用）	発電機	ラジオ	排便収納袋	など
食料					
ビスケット	アルファ米	おかゆ	粉ミルク	保存水（アルファ米、粉ミルク用）	
※使用・賞味期限がある物品は期限1年前に入れ替えを行っています。					

○飲料水について

震災時の飲料水等を確保するため、こどものひろば公園などの給水拠点のほか、指定避難所には、耐震工事がなされた配管から飲料水が確保できるよう、スタンドパイプによる応急給水栓の整備が進められています。（右写真参照）



○家庭での「日常備蓄」について

災害が発生した際は電気やガス、水道が使用できなくなったり、道路等ががれきで塞がれたり、数日程度流通が機能しない恐れがあります。いざというときのために、普段使っている食料品や生活必需品を常に少し多めに備えて、日常的に備蓄しておきましょう。

**「日常備蓄」で
災害に備えよう**
～自宅での備えは万全ですか？～

食べる・使う

少し多く買う

減った分を買う

食べる・使う

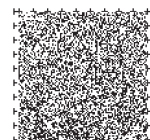
東京都

- ～日常備蓄アドバイス～
- ・ 備蓄品は1人最低3日以上、できれば1週間分を目安として準備する。飲料水は1人1日3リットルが目安の量です。
 - ・ 日ごろから持病があり、薬を飲んでいる人は予備の薬やお薬手帳も用意しておきましょう。
 - ・ 消費期限があるものは期限前に入れ替えましょう。古いものから順に消費し、減った分を補充することで、常に少し多めの状態をキープします。

東京都では、いつ起こるか分からない自然災害に備えて各家庭で「日常備蓄」を実践していただくことを推奨しています。発災時に必要な備蓄品目の解説や備蓄食料品を使用したレシピが紹介されている【「日常備蓄」で災害に備えよう～自宅での備えは万全ですか？～】を東京都のホームページで閲覧できます。また、PDF版のダウンロードも可能です。ご希望の方は下記のQRコードをご利用ください。



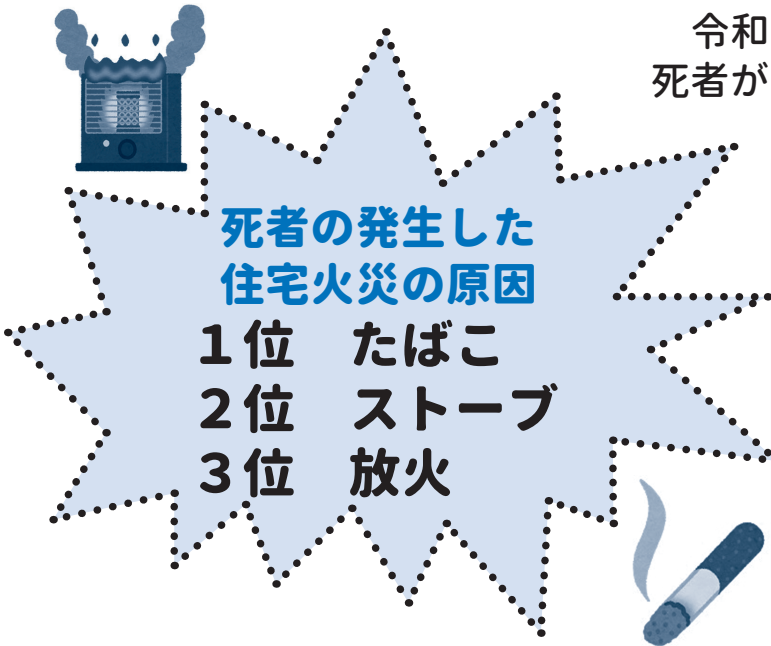
出典先：「日常備蓄」で災害に備えよう
（東京都）



世田谷消防署からのお知らせ

住宅火災による死者が急増！

令和元年中、世田谷区では火災による死者が9名発生しています。



死者の発生した住宅火災の原因


- 1位 たばこ
- 2位 ストーブ
- 3位 放火



住宅用火災警報器をチェックしましょう

～住宅用火災警報器のポイント～

- ・全ての居室、台所、階段に設置しましょう。
- ・定期的に作動状態の確認、機器本体の清掃をしましょう。
- ・設置から10年を経過したものは本体の交換を検討しましょう。



4月は消防団員募集強化月間です

消防団は火災などの災害活動をはじめ、応急救護の普及活動や災害を未然に防ぐための啓発活動など、幅広い活動を行っています。会社員や自営業、学生や主婦など様々な職業や年齢層の方々が、「自分たちの町は自分たちで守る」という精神のもと、地域に密着した活動を行っています。特別区の消防団では、町会・自治会のみならずの協力を得て、地域のイベントなどの機会に広く消防団員を募集しています。



消防団への入団条件

- 1 年齢18歳以上の方
- 2 心身ともに健康な方
- 3 消防団の区域内に居住・勤務又は通学している方

首都東京を守る消防団

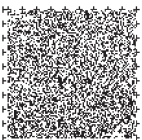


お問い合わせはフリーダイヤルまたは最寄りの消防署まで

東京消防団

0120 119-588

<https://tokyo23city-syobodan.jp/>

問い合わせ先
世田谷消防署 警防課 防災安全係
03-3412-0119

